

瓦礫が教えてくれること

国指定史跡下野薬師寺跡には、実は塔が2基ありました。この2基の塔は、奈良の薬師寺のよう同時に存在したものではありません。「創建の塔と再建の塔」。なぜ、再建の塔と呼ばれているのか？意外と知られていません。再建があるので創建もあるはずです。

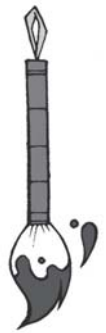
下野薬師寺の創建は、『類聚三代格』、『続日本後紀』などの平安時代に記された文献史料などでは、天武天皇の時代の680年頃に建てられたと記されています。これらの史料は、直接そのときに記されたものでないため「二次資料」として扱われますが、発掘調査で出土した一番古い瓦の文様などから、現在ではほぼこの時期でいいのではないかとされています。

その後、720年代以降、国家プロジェクトとして公費がつか込まれ、大改修によって、「あたかも七大寺の如し」と称される東国一の大寺院となります。その後、761年には東国仏教の中心となる日本三戒壇の一つが設置されました。このときには、創建の塔はまだ建てていたのでしょいか？どのタイミングで創建の塔が無くなったのかはわかりませんが、平安時代の800年代の終わり頃、塔は新たに建て直されました。この事実が発掘調査により判明しています。

では創建の塔は？その創建の際に建立された塔は、下野薬師寺の伽藍の中心で発見されています。

現在の安国寺六角堂南東の位置となります。この塔は、原因は分かりませんが出火により焼け落ちていることが確認されています。塔は火災後に完全に取り壊されたようで、礎石の中でも深く埋め込まれた心礎（芯柱のための中央に据えられる大きな礎石）の抜き取り穴しか見つかりませんでした。ただ、付近からこの塔に使われたと想定される、焼けただれた瓦がまとまって穴の中から出土しました。この穴は、瓦礫を廃棄するための穴で、そのためだけに掘られてすぐ埋め戻されます。ですからいろいろな時代のものが混じらないゴミ穴となります。あまり良い事例ではありませんが、京都では応仁の乱の大火の焼土層、江戸では明暦の大火などの火災後の整地層とこれに伴うゴミ穴などが有名です。両国の江戸東京博物館には、地層をはぎ取って各時代の整地層がわかり易く展示されています。また、例えば京都では本能寺の変の火災、滋賀県安土城、大阪では秀吉の築いた大坂城は史料で落城の日までわかる例です。秀吉が

京都伏見に築いた最初の伏見城（指月伏見城）は、文禄5年（1596）閏7月12日深夜の「慶長伏見地震」により、天守の上層が倒壊しました。3年前の発掘調査では、そのとき埋め戻された瓦礫に混じって天守に使用された五七桐文軒丸瓦や金箔が貼られた瓦が出土しています。横浜の山下公園は、関東大震災で崩壊した横浜市内の瓦礫処理



下野市教育委員会 文化財課

と再び災害があったときの避難所として、昭和5年（1930）に日本最初の臨海公園としてつくられました。

数年前、広島平和公園では原爆資料館の増改築に伴い発掘調査が行われました。調査地点からは原爆投下により焼け野原となった際の瓦礫とともにその直前まで使用されていた日常生活用具が出土しました。これらは復興時の公園整備の際に整地層の中に埋められたようです。新しい資料館には、展示物のひとつとして、1本の焼けただれた牛乳ビンが展示されています。この資料には実際、触れることができます。筆者も触れてみましたが、熱線で溶けた時はどれほど赤く熱を帯びたのか。それを思うと一層冷たさが増したような気がしました。筆者の前後に諸外国から来訪した方々も次々とこのビンに触れていましたが、各々歴史の重みを実感したかと思われず。有名なイギリスの歴史学者であるエドワード・ハレット・カー（E・H・カー）の著書『歴史とは何か』（清水幾太郎訳）の冒頭に著名な一文として「歴史は現在と過去の対話である」とあります。非常に重い一文です。5月以降、修学旅行のシーズンともなりますが、本物の歴史に触れる絶好の機会でありま

す。京都・奈良、広島などで本物の歴史に触れて熟考することは、とても大切なことです。